

第1回徳島県復興指針検討委員会 議事録（要約版）

日時：平成30年9月3日（月）
14時30分～16時30分
場所：徳島グランヴィリオホテル
1階「ヴィリオルーム」

出席委員（五十音順）

中林委員長、石本委員、伊原委員、井若委員、植本委員、西條委員、定池委員、
中野委員、細束委員、堀井委員 計10名

1 開会

2 知事あいさつ

3 議題

（1）「徳島県復興指針」策定に向けた体制等について
資料1及び2により事務局から説明

（2）「徳島県復興指針検討委員会設置要綱」及び委員長、委員長代理の選任について
中林委員を委員長に、中野委員を委員長代理に選任

（3）議題3 「徳島県内で想定されている大規模災害について」
資料3により事務局から説明

（4）議題4 「徳島県復興指針」策定の目的等について
資料4により事務局から説明

（5）議題5 徳島県復興指針の構成（案）について
資料5により事務局から説明

4 閉会

第1回徳島県復興指針検討委員会での主な意見について

□「復興指針」について

○指針の目的や特徴を明確化させるため、大規模災害と局所的災害の問題を区別して明記すべき。

○過去の事例から20年を超える長期的な視点も取り入れるべき。

○それぞれの主体でどのような取組をしていけばスムーズに復興に至るのか、役割分担を示すべき。

○住民との合意形成や地域コミュニティの崩壊について、指針に盛り込むべき。

○福祉的な視点を盛り込むべき。

○支援者（ボランティア）が復旧、復興の中でどういった役割を、どういった連携をしながら担っていくのか盛り込むべき。

○官だけでなく、民の視点も入れるべき。

○方向性、方針の項を設けて記載し、指針を見て、利用する市町村や事業者の方が参考となるようにすべき。

○理念、方針あるいは基本目標を位置づけておくべきでは。

○徳島ならではの文化を守るとか、それを勉強するとかを指針に盛り込むべきでは。

○県外からの支援者を受け入れる体制づくりなどの受援力を盛り込むべきでは。

○指針の中に安全という言葉だけでなく、安心という言葉を使って欲しい。

○ H30.3 策定の「徳島県震災復興都市計画指針」と今回の復興指針との位置付けや関連性について

○徳島県のオリジナリティ、県として守るべき、育てるべき、早く回復させたいものが分かるように整理すべき。

○県の現状認識、課題を記述し、その部分を指針に反映させたことが分かるようにすべき。

○他の被災地で時間が経ってから見えてくる課題もあるので、盛り込むべき。

○平常時のまちづくりと災害時の復興をシームレスにするために、県総合計画ともビジョンや施策項目を共有し、課題と対策を考えるべき

○事前復興まちづくり計画は被災を前提とした総合計画である。事前復興の指針や計画を「県総合計画」等に中に位置づけて欲しい。

○指針の枠組み（理念編、立案施策編、プロセス編、体制編、提案編）

- ・徳島らしい復興はどういう復興か、ビジョンを考えておくべき。（ビジョン編）

- ・ビジョンを実現していくため、計画、方針、施策の計画立案するための準備、手順を考えておくべき。（立案施策編）

- ・被災者1人ひとりの復興、行政による被災地の復興、民間事業者の復興、それらを一体となってどう復興していくのか、復興プロセスを考えておくべきでは。

（プロセス編）

- ・復興を進めるためにどういう体制を作るのか。（体制編）

- ・次に向けての提案や、こういう仕組みを作った方がいいのではという、自らへの実現へのステップとして、提案となってくる。例えば、復興を進めるにはまちづくり条例のようなものが必要なのか、コミュニティを活性化するためにはどういう仕組みがあったらいいとか。（提案編）

□「被害想定」について

○通信やガスについても、使用されている人口を加味した上で、データを示して欲しい。

□「その他」について

○復興に関する基礎データを部局横断的に収集し、アップデートしておく必要がある。

○事前復興の指針や計画を「県総合計画」等に中に位置づけて欲しい。

○住民主体、行政協働、専門家コーディネートで事前復興まちづくり計画の作成、合意を進めるためにも、事前に復興まちづくり条例(まちづくり協議会・アドバイザー派遣制度)の仕組みを作り、震災前から実践できるようにして欲しい。